

学 会 彙 報

(一九九一年六月～十月)

◇研究発表例会

六月二十七日(木) 午後四時十分

於 多目的ホール

『大般涅槃經』における如来常住と
悉有仏性 試考」

博士後期課程三回生

長澤 円氏

「インド論理学における推理の成立
条件について」

博士後期課程三回生

山本 和彦氏

「仏護と『無畏註』の年代——二無
我を手掛りにして——」

専任講師 白館 戒雲氏

研究発表終了後、第一研究室分室1
において発表者を囲んで座談会を行
なった。

◇研究発表例会

十月十五日(火) 午後四時十分

於 多目的ホール

「アサンガの熏習論とヴァスバンド

ウの識転変論」

博士後期課程三回生

樋田 道男氏

「華嚴の成仏論——法蔵の所説を中
心にして——」

専任講師 一色 順心氏

研究発表終了後、第一研究室分室1
において発表者を囲んで座談会を行
なった。

◇修士論文中間発表会

十月二十四日(木) 午後四時十分

於 多目的ホール

修士論文提出予定者のうち、五名の
院生がそれぞれのテーマで発表を行
なった。出席の教員からも意見が出
され、有意義な会であった。

編 集 後 記

予定の日時の発刊ということで進めつ
つ、本号も、諸般の事情によって遅れざ
るを得なかった。深くお詫びしなくては
ならない。

今年度は、始めての試みとして、本学

真宗学科、仏教学科からなる第一研究室
ならびに、短期大学部仏教科の主催によ
る、「大谷大学インド仏跡研修旅行」が
実施された。多数の参加をみたのである
が、仏教学に取り組む諸氏にとっても、
仏教インドの大地をまのあたりにして、
それぞれ思いのなかで感慨を深めたので
あった。次回もこのインドの大地に、と
密かに誓った諸氏もいよう。

この研修旅行の概略は、ご多用の中にも
かかわらず、纏めていただき、本号に
収録することができた。

巻頭論文には、学生会員にも配慮した
内容のものを本号でもお願いした。巻末
の新入会員歓迎会の記念講演筆録と併せ
て、所期の方針にかなったものを掲載す
ることができた。

そのほか、論文二編、ならびに、書評
三編、それぞれ熱意の込められた原稿を
頂戴することができた。関係の方々に謝
意を表したい。

(M・K)